

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 22 日現在

機関番号：44428

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531045

研究課題名(和文) 保育現場における「素話」の活用に関する実証的研究

研究課題名(英文) An empirical study of "SUBANASHI" in preschools(nursery schools and kindergartens)

## 研究代表者

高橋 一夫 (Takahashi, Kazuo)

常磐会短期大学・その他部局等・講師

研究者番号：10584170

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：保育現場では子ども達の表現活動が重視されている。その表現活動には言語表現の領域があり、日々の保育においても絵本の読み聞かせなどが豊かに実践されている。ところが、絵本などを用いずに話す「素話(すばなし)」は、保育の場において衰退しつつある。そこで本研究では、言語表現活動として重視されるべき「素話」が、なぜ保育現場で衰退しているのかを実証的に分析し、「素話」の実践を支援する方策を模索した。その結果、「素話」では絵本の読み聞かせと異なり、子ども達が想像力を働かせていることが明らかになった。そして、この「素話」に特徴的な効果を理解することが、豊かな実践に必要なことが分かった。

研究成果の概要(英文)：In Japan, nursery teachers often talk with using a picture book. Talk without using the picture book is called "SUBANASHI" in Japan. However, the frequency of "SUBANASHI" performance is decreasing. Therefore, in this study, we analyze present issues of "SUBANASHI" at childcare. And we look for a way to help practice of "SUBANASHI". As a result, children imagine desperately what kind of thing it is, when the thing which is not known appears in "SUBANASHI". Therefore, children are expected to carry out various imagination using favorite colors in drawing after "SUBANASHI". On the other hand, things which children know, or which appear in picture books are painted in actual colors in drawing after storytelling with using a picture book. From now on, nursery teachers understand the difference in the effect of "SUBANASHI" and "Storytelling with using a picture book", and it becomes important to utilize both well.

研究分野：教育学、幼児教育、政策科学、教育社会学

キーワード：素話 絵本の読み聞かせ 保育 幼児教育 言語表現活動

### 1. 研究開始当初の背景

口承文芸は世界各地に息づいており、そのひとつに昔話が存在している。私たち日本人も昔話を語り、そして聴くという営みを通して、固有の文化や生活に関わる知恵などが世代を超えて伝承されてきた。

口承文芸、とりわけ昔話については、非常に豊かな研究がなされており、特に民俗学や文学の側面からの知見が蓄積されている。その昔話が語られた中心は、過去においては各家庭においてであった。そして、近代以降の現在に至るまで、保育所や幼稚園といった保育現場においても語られることが多くなり、普段の保育活動でも様々な場面で物語られている。なかでも口承文芸の要素が強い保育現場における“物語る”行為を「素話」と呼び、豊かに実践されてきた。しかし、保育・幼児教育の視点からの研究は多くなく、実証的研究が十分にはなされてこなかった。さらに、昨今「素話」は保育現場において、その実践が急速に減少している状況にある。

そこで、本研究では保育現場での代表的な“物語る”行為である「素話」に着目し、「素話」の実践が減少している原因を調査し、豊かな「素話」の実践のために何が必要なのかを実証的に明らかにしたいと考えた。

### 2. 研究の目的

保育現場において言語表現活動が重視されており、絵本の読み聞かせも豊かに実践されている。ところが、日本の口承文芸の流れを汲む「素話」は、保育の場において衰退しつつある。

そこで本課題の一連の研究では、言語表現活動として重視されるべき「素話」が、なぜ保育現場で衰退しているのかを実証的に分析し、「素話」が計画的かつ効率的に実施できる手立てを確立する。

具体的には、実際の保育現場で「素話」の実践をおこない、参与観察・インタビュー調査、およびアンケート調査などの手法を用いて、(1)「素話」に適した題材・テーマについて、(2)効果的な「素話」の語り方について、(3)「素話」に適した環境についての大きく3側面から実証的に分析し、それぞれについて明らかにすることを目的としている。

### 3. 研究の方法

本研究では、「素話」を実践する語り手の保育者(保育者養成校の学生)と、聞き手である子ども達の両者を詳しく調査する。両者に対する調査実験としては、当然ながら「素話」の実践を中心におこなうが、その際に用いる研究手法としては、大きく2種類を予定している。それは、インタビュー調査・参与観察、および子ども達の描画実験である。

- ・インタビュー調査と参与観察  
インタビュー調査は、主に「素話」の実践

者である保育者や保育者養成校の学生に対して実施する。ビデオカメラやICレコーダーによって採取された画像データや音声データを、テキストマイニングなどによって分析する。

さらに、「素話」の聞き手である子どもに対してもインタビュー調査をおこなうが、対象が乳幼児であるため十分な聞き取りが不可能である場合も想定されることから、参与観察の手法を併用する。参与観察においてもビデオカメラとICレコーダーを使用する。図1と図2は、インタビュー調査と参与観察のイメージである。



図1. 「素話」の実践の記録方法と子どもたちの「素話」に関わる発話の収集



図2. 「素話」実践の様子の記録

- ・子ども達の描画実験

さらに、「素話」と他の言語表現活動との相違点を明らかにするために、「素話」実践後に子ども達の描画活動を設定する。描画活動には、塗り絵と自由描画の2種類を設定する。子ども達の塗り絵や描画作品から、絵本の読み聞かせ後の描画活動とは異なる「素話」に見られる特徴を抽出することを目指す。図3は、描画実験のイメージである。

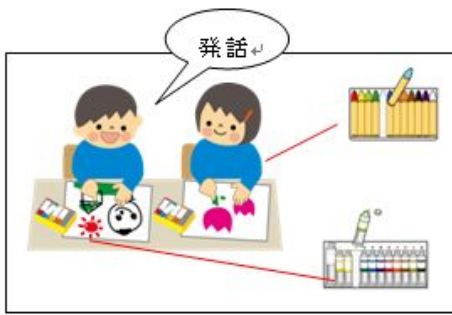


図3. 「素話」実践後の子ども達の描画活動

#### 4. 研究成果

本申請の一連の研究から、保育現場における「素話」の実践に関して明らかになったことを以下に述べる。

まず、先行研究で指摘されていた保育現場における「素話」の実践の減少であるが、やはり、本研究の調査からも先行研究の指摘と同じく、「素話」の実践が減少傾向にあることが明らかになった。さらに本研究の成果からは、どの年齢段階の子どもに対しても、一様に「素話」の実践が減少していることがわかった。

一般的に保育者は「素話」は挿絵がないために、年少児には不適である」と考えているということが指摘されており、そのために「素話」の実践は年少児に対してではなく、年長児に対して行われていると考えられていた。したがって、「素話」の実践が減少しているのは、年長児に対して実践されないことが大きな要因になっていると想定されていたのである。しかし、本研究で実施した保育現場に対するアンケート調査からは、年少児に対してだけでなく年長児に対しても「素話」を実践することが減少していることがわかった。つまり、同じ言語表現活動である絵本の読み聞かせなどによって、「素話」の実践が代替されている現状が明確になったといえる。

次に、保育現場全体で減少している「素話」の実践であるが、その起因のひとつとして、保育者養成に関わって「素話」を学ぶ機会が十分に得られない現状があることがわかったということである。日本社会においても過去には、各家庭の囲炉裏端で祖父母から孫へと、昔話を代表とする口承文芸が伝承されていた。しかし、現在の日本社会では、家庭において昔話を語ること自体が減少している。そのため、保育者を目指す学生が「素話」を学び取る機会としては、現実的には保育者養成校において他には存在しないといって過言ではない。ところが、保育者養成校のカリキュラムでは「素話」を学ぶ機会は必要十分には設定されていない。さらに、前述の通り、保育現場での実践が減少していることから、保育・教育実習において学ぶ機会の減少しているのである。「素話」の実践を学ぶ機会の減少が、実践のための自信を身につけるため

の経験を積むことができないことに繋がっている。さらに、経験不足は実践に対する恐怖心を高めることとなり、恐怖心から実践を敬遠するという悪循環を生んでいる。「素話」に対する不安感や実践中の緊張感を、本研究における一連の実験調査によって可視化したことで明らかになった点である。

さらに、「素話」に用いる題材としては、創作よりも昔話が適していることがわかった。これは民俗学と文学の視点からの昔話に対する先行研究の知見と、図書館学におけるストーリーテリングに関する知見を援用することで明らかになった。保育者養成校の学生の「素話」に対する苦手意識は、自分自身の語りによって子ども達を十分に引き付けられるのかという不安に起因しているが、さらにその背後には、物語の内容を正確に覚えられかが不安であるということが隠されている。その二つの不安を解消するものが、昔話とストーリーテリングの技法である。昔話は数百年もの間、人々の心を惹き続けた口承文芸であり、幼い子どもであっても耳からの情報だけで十分に理解できる内容となっている。さらに、図書館学におけるストーリーテリングでは、物語の構造を記憶することが始める物語の覚え方が理論化されている。

最後に、「素話」に見られる特徴的な効果も、子ども達の描画活動によって明らかになった。絵本の読み聞かせ後の子ども達の描画活動では、絵本の挿絵を真似る作品が多数見られ、挿絵から離れた想像をすることが困難な様子が確認できた。しかし、「素話」の実践後の子ども達の描画活動では、子ども達の自由な発想による自由な描画を確認することができた。それぞれの子ども達が、自分自身の生活経験などに基づき、のびのびとした想像をすることが可能であるということが、「素話」の良さのひとつであると指摘できる。今までは実証的に明らかになっていなかった「素話」の利点を明らかにできたことは、非常に有意義であるといえる。

今後の課題としては、さらに実験調査を重ね「素話」と他の言語表現活動の相違点を明らかにしていくことが挙げられる。また、同時に本申請の研究から得られた成果を、具体的にどのように保育現場に還元していくかについても検討すること課題である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

高橋一夫, 平野真紀, 新谷公朗  
「子どもの描画にみる「素話」の効果について」常磐会短期大学紀要 43, 査読無, pp.69-82, 2015

高橋一夫, 堀千代, 磯沢淳子  
「保育現場における素話の実践 絵本の読

み聞かせとの比較を通して」常磐会短期大学紀要 42, 査読無, pp.47-56, 2014

〔学会発表〕(計 12 件)

白井由希子, 高橋一夫, 新谷公朗  
「保育者の「話し方」をブラッシュアップするための学習支援システムの提案」教育システム情報学会 第 39 回全国大会, 2014 年 9 月, 和歌山大学

Kazuo TAKAHASHI, Aki KONO, Kimio SHINTANI  
「A study of the memorizing method of storytelling ( “SUBANASHI ” ) in a school for training of early childhood teachers」Pacific Early Childhood Education Research Association 15th Annual Conference, 2014 年 8 月, Bali, Indonesia

高橋一夫  
「保育現場における「素話」の現状 豊かな実践を支えるために」日本教師教育学会第 23 回研究大会, 2013 年 9 月, 佛教大学

高橋一夫, 糠野亜紀, 平野真紀, 新谷公朗  
「色づかいに見る素話の可能性」全国保育士養成協議会 第 52 回研究大会, 2013 年 9 月, 香川県・サンポートホール高松 かがわ国際会議場

Kazuo TAKAHASHI, Aki KONO, Kimio SHINTANI  
「Opinions by students of a childcare training college about “SUBANASHI ” at childcare of Japan」Pacific Early Childhood Education Research Association 13th Annual Conference, 2012 年 7 月, Singapore

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 一夫 (TAKAHASHI, Kazuo)  
常磐会短期大学・幼児教育科・講師  
研究者番号: 10584170

### (2) 研究分担者

平野 真紀 (HIRANO, Maki)  
常磐会短期大学・幼児教育科・教授  
研究者番号: 70342201

糠野 亜紀 (KONO, Aki)  
常磐会短期大学・幼児教育科・准教授  
研究者番号: 60342268

新谷 公朗 (SHINTANI, Kimio)  
常磐会短期大学・幼児教育科・教授  
研究者番号: 30340871

### (3) 連携研究者

金田 重郎 (KANEDA, Shigeo)  
同志社大学・理工学部・教授  
研究者番号: 90298703

### (4) 研究協力者

白井 由希子 (SHIRAI, Yukiko)